



政府系の石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)は2015年12月、オーストラリアのタンクステン鉱山の共同探鉱の契約を解消した。タンクステンは超硬工具の原料で、世界供給の8割を中国が占める。

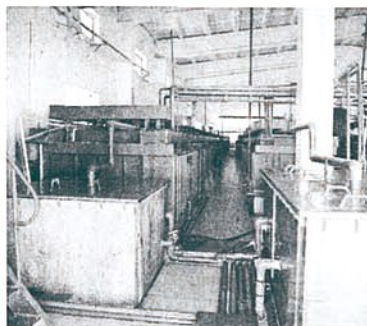
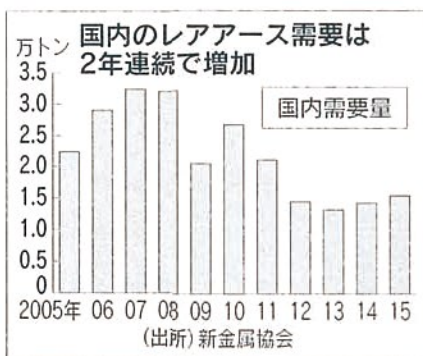
JOGMECは豪州の探鉱会社と共同で11年に参入し、約4億円の探鉱費用を負担してきた。同機構は権益をたずずに資源量などを算定した後、権益を得たい日本企業に引き継ぐことを目的としていた。

だが、相場が参入当時と比べて6割安と予想以上に下がった。権益に興味を示していた商社の関心もなくなった。

「今の価格の2倍くらいないと投資しても回らない」と見直した。今年2月、昭和電工の市川秀夫社長はレアアース7月末に中国のレアアース事業に「他社との提携」をめぐり「他社との提携」

## 日本勢 関心低下に不安も

### レアメタル余剰



中国は今年6月までに生産工場を6社に集約する

## 世界供給 中国の寡占進む

社を解散すると発表した。中国などに偏在するレアメタル。供給源の多様化は日本にとって長らく課題だった。10〜11年にかけて、尖閣諸島を巡る日中対立をきっかけに中国が事実上の禁輸措置をとり、価格が高騰。高性能磁石に使うネオジムは現在の10倍まで上昇した。

日本はその後、リサイクルや代替材の開発を進めてきた。ただ、自動車などの軽量化や高性能化が求められるなか、国内産業にとって欠かせない資源であることに変わりない。

「価格の下落で、使用量を抑える動きが鈍っている」。省レアメタルを進め

る大手自動車メーカーの技術者は話す。自動車のレアメタル使用比率は高く、モーターや窓ガラスにも使っており、値下がり恩恵は大きい。大手磁石メーカーの幹部は「エアコンのモーターに再びレアアース磁石を使うなど家電メーカーの姿勢も変わってきた」と話す。小型化にはレアメタルを使う方が効率が良いためだ。勢の関心が薄れるなか、中国は再び覇権を握ろうとしている。今は相場の下落で供給不安が薄れているが、中長期的には安定供給が揺らぐ可能性もはらんでいる。

と、昨年6月に経営破綻した米生産大手モリコブの買収に中国企業が関心を示しているという。「買収をもちかけられたが断った」(日本の大手商社)。日本

水面下で市場の寡占化も進む。中国では今年6月までに100社を超えるレアアース生産会社の6社への今橋瑠璃華が担当しまし